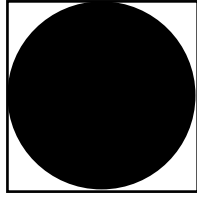


InSEA



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 166

2022. 9

〒113-0033 東京都文京区本郷2-30-14 文京ビル206号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 大坪圭輔

ニュース担当 岩崎仁美

E-mail: info@insea-in-japan.or.jp

美術の力を信じて

公益社団法人 日本美術教育連合理事 北澤 俊之

今期より理事を仰せつかりました北澤俊之です。甚だ力不足ではありますが、これまでお世話になった本連合に少しでも恩返しができるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて先日、ロシアによるウクライナ侵攻から半年が経ったとのニュースが流れました。当初、この争いがここまで長期化することを誰が予想したでしょう。この間、私の勤務校では数名のウクライナ人留学生を受け入れ、そのうちの一人の女子学生が私の授業を履修してくれました。とても熱心な学生で、こだわりのある制作姿勢や、完成した作品を携えて仲間と積極的にコミュニケーションを図ろうとするひらかれた意識に、私や学生たちはたくさんの刺激をもらいました。ただ、学期の途中で彼女の指導教員から、最近祖国の大切な友人と恩師を続けざまに亡くし、そのことで随分と落ち込んで寮の仲間を心配させたとお話を伺いました。そんな辛い思いをおくびにも出さずに気丈に振る舞っていた彼女を思ったとき、恥ずかしながら私はテレビで見る遠い国の戦禍をほんの少しだけ身近なものとして捉えることができました。

本棚に積んでおいたオーウェルの『1984』を手にとったのは、ちょうどその頃です。70年以上もまえに書かれた近未来小説ですが、「監視」や「歴史の改ざん」、「情報や使用言語の統制」等を通して為政者が全体主義社会を維持する描写は、まるで閉塞感に満ちたいまの世界を予見していたかのようで空恐ろしいものでした。このことは、たとえば現代をハイパーインダストリアル時代と捉えたフランスの哲学者ベルナール・スティグレールの警鐘—メディアが人の意識や感性を操作し、個である「わたし」や、共同体としての「わたしたち」を喪失させつつある—にもつながります。知らぬ間に私たちの意識に滑り込んでくる情報を批判的にとらえるために、また他の誰でもない自身の持ち味や、違いを認めつつ他者と協働することの意味を発見するために、美術教育ができることは決して少なくないはずで、作品をつくったり、ものをみたりすることの先にわたしたちが求めるものは何か。そのことをしっかりと見据えて仕事をしなければいけないと強く感じる昨今です。

第56回 日本美術教育研究発表会2022 案内

日 時：令和4（2022）年10月16日（日）9：00—15：00

場 所：オンライン ZOOM 各設定Room内

参加費等：参加費500円（概要集代として）会員以外の方でも参加できます。
事前申込が必要です。

連合HPからご案内します。参加者には『日本美術教育研究発表会2022 概要集』をオンラインで配付します。

主 催：公益社団法人 日本美術教育連合（InSEA-JAPAN）

後 援：文化庁

※最新情報は、日本美術教育連合HPに掲載されますので、ご確認ください。

公益社団法人 日本美術教育連合 第7期 理事会・運営委員会 (任期：令和4(2022)年6月6日～令和6(2024)年5月開催予定第14回定時総会)			
理 事 会			
理 事 長	大 坪 圭 輔	統括	
理 事	北 澤 俊 之	事務局担当	
理 事	西 村 徳 行	国際局担当(事務局財務担当兼任)	
理 事	三 澤 一 実	事業局担当	
理 事	結 城 孝 雄	研究局担当	
監 事	榎 原 弘二郎		
監 事	宮 坂 元 裕		
運 営 委 員 会			
研究局	理 事	結 城 孝 雄	研究局運営委員長
	運営委員	笠 原 広 一	(国際局運営委員兼任)
	運営委員	小 林 貴 史	
	運営委員	竹 内 晋 平	
	運営委員	立 川 泰 史	論集編集委員長
	運営委員	山 口 喜 雄	
	運営委員	山 田 一 美	
	局 員	赤 木 恭 子	
	局 員	藤 井 康 子	
事業局 美術教育 連携交流 担当	理 事	三 澤 一 実	事業局運営委員長
	運営委員	大 杉 健	
	運営委員	岡 田 京 子	
	運営委員	小 池 研 二	
	運営委員	手 塚 千 尋	
	運営委員	長 田 謙 一	
	局 員	茂 木 克 浩	
国際局	局 員	佐々木 敏 幸	
	理 事	西 村 徳 行	国際局運営委員長
	運営委員	笠 原 広 一	(研究局運営委員兼任)
	運営委員	茂 木 一 司	
	運営委員	山 田 猛	
事務局	局 員	佐 藤 真 帆	InSEA評議員
	理 事	北 澤 俊 之	法務担当
	理 事	西 村 徳 行	財務担当(国際局運営委員長兼任)
	事務局長	畑 山 未 央	
	運営委員	岩 崎 仁 美	ニュース担当
	運営委員	大 櫃 重 剛	ホームページ担当
局 員	矢 澤 聡		

1. 総会記念講演・シンポジウム及び造形美術教育フォーラムは、公益目的事業3に位置付け、事業局の担当とする。
2. 理事会は対面での開催を原則とする。
3. 運営委員会は、新型コロナウイルス感染状況に配慮しつつ対面での開催を原則とし、状況に応じてオンラインでの出席も可能とする。

研究局より

■第56回 日本美術教育研究発表会2022 実施案内■

日本美術教育連合理事・研究局運営委員長 結城孝雄

- 開催日時：令和4（2022）年10月16日（日）9：00－15：00
- 会場：オンライン ZOOM 各設定Room内
- 参加費等：参加費500円（概要集代として）事前申込みは必要、会員以外の方でも参加できます。
『日本美術教育研究発表会2022 概要集』をオンラインで配付します。
- 主催：公益社団法人 日本美術教育連合
- 後援：文化庁

発表者の皆様へ

事前のテストRoom開設

- 事前の試験実施：令和4（2022）年月9日（日）10：00－11：00
各Room設定者（研究局 A－山田・B－小林・C－畑山・D－結城・E－岩崎）が設定したRoomにて
- 発表者ごとに各10分以内
- ◆音声テスト・プレゼンテーションテスト・通信量確認・カメラテストの実施
 - ◆配布資料があれば 配布テスト
 - ◆もし、日程が合わない場合は、発表者の別途対応いたします。
 - ◆発表者には 設定者からメールにて Accessコードの連絡を差し上げます。
 - ◆研究発表会当日、発表中にアクシデントが起き中断しましたら、予備室を用意しておりますので、再発表が可能です。主催者側と協議の上、スケジュールを決定します。
 - ◆研究発表会当日、投稿論文（12：20－12：50）についての説明会があります。必ず、ご参加ください。

参加者・発表者の皆様へ

- ◆研究発表会 参加予約
9月3日からPeatixにて 予約開始 先着順200名 オンライン決済 参加費 500円 領収書の有予約の際に 参加者・発表者皆様には、下記の信義則実行の内容を確認していただき、ご了承の上、ご参加ください。

セキュリティの確保

- アクセス情報を他者に知らせない・発表者の発表データを無断流出しない・参加者の肖像を無断流出させない。

参加者の信義則実行の原則

- Accessコードを他者に知らせない。
- 研究発表の発表資料を無断で画面から記録しない（発表者が許可する場合はこの限りではない）。
- 参加者の肖像を記録しない。
- 発表進行への協力。

発表者の著作権・肖像権の順守

- 発表者は、著作権を順守し、肖像権を尊重した発表を実施すること。
- そのために使用する画像、データ等、著作権・肖像権に抵触しないことを必ず事前に確認すること。参加に際しては、これを承認されたものとしたします。

- 参加者の皆様には、当日までにメールにて、各部屋のAccessコードをお知らせします。
- 開会式はD会場にて9：00より開会しますので、ご参加ください。
- 発表に際して、各会場に入室されましたら、チャットにお名前・所属、一言をお書きください。
- 発表中のチャットによるご質問は、随時ご記入ください。
- 各会場では、マイク・ビデオカメラをOFF（ミュート）の設定をしております。

第56回日本美術教育研究発表会2022 発表スケジュール 令和4年(2022)10月16日(日)

会場：ZOOM会議上 主催 公益社団法人 日本美術教育連合 後援 文化庁

9:00 9:15 移動 9:30	開会式 D会場				
9:30	A会場(理論等) 山田	B会場(実践小) 小林	C会場(実践中・大) 畑山	D会場(特支/幼) 結城	E会場(海外/実践高) 岩崎
9:30 9:55	A-1 戦後の美術科教科書における掲載作品の研究(23) -美術科教科書1956~2021年度1学年「見て表す」学習に関する考察- 元 宇都宮大学 山口 喜雄	B-1 造形活動におけるファッションの場の考察 東京家政大学 宮田みな美	C-1 中学校美術における概念教育と粘土を扱った授業実践 東京学芸大学教職大学院教育実践専門職高度化専攻 小島菜緒子	D-1 造形表現と 図画工作科の接続 いわき短期大学 松井 素子	E-1 チェコの高等学校における「kanji」創作の美術授業についての考察 -漢字の異文化を媒介する側面と造形的側面に着目して- 金沢学院大学 家崎 萌
10:10 10:35	A-2 絵画制作を起点とした探求学習との融合 -表現型探求プロジェクトの開発と実践- 奈良市立一条高等学校 佐藤 隼	B-2 カリキュラムを見直す教師の視点 -図画工作科における題材別アンケートの分析から- 立川市立新生小学校 宮崎 恒平	C-2 性を構成する要素である性表現に注目した美術科の授業実践の成果と課題 足利短期大学 茂木 克浩	D-2 幼児表現活動における「工芸の学習プログラム」の開発と実践 -伝統技法の体験学習「箸をつくる」の研究- 小田原短期大学 久保寺賀子	E-2 JICA海外協力隊の活動の検証と一考察 東京造形大学大学院 石田 恒平
10:35 10:55	休憩(20分)				
10:55 11:20	A-3 造形活動における快情動と触覚についての事例研究 東京学芸大学附属 小金井小学校 守屋 建	B-3 モジュール発表 小学校における芸術統合型学習の実践的考察 -フレスコ画の実践を通して- 大分大学 藤井 康子 大分大学 西口 宏泰 臼杵市立佐志生小学校 永松 芳恵	C-3 造形活動の教材づくりにおける学生の学び -自然材を用いた模擬保育の質的分析から- 中部学院大学短期大学部 小室 明久 東京学芸大学 竹 美咲	D-3 保育施設4・5歳児学級の幼児が描く発熱する自分 社会福祉法人橋会 御南まんまるこども園 横田 咲樹 岡山大学大学院 高橋 敏之	E-3 東山魁夷の『道』とホッペマの『ミッテルハルニス』の並木道』の比較鑑賞 福島県立須賀川創英館 高等学校 西丸 純子
11:35 12:00	A-4 美術科教育における探究活動と思考ツールの事例 元 東京学芸大学 山田 一美		C-4 造形実験2021 -緊張感を考える- 埼玉大学教育学部 附属中学校 小西 悟士	D-4 保育園に設置したカメラとディスプレイを用いた遊具について 山形大学 具志堅裕介	E-4 表現の主題を探究する主観的ドローイングの実践 筑波大学 附属駒場中・高等学校 川人 武
12:00 13:30	論文投稿者説明会 12:20-12:50 昼食(12:00-13:30)				
13:30 13:55	A-5 「対話的な場」の形成に関する一考察 -一事象のフローにおける媒体性を視点として- 熊本大学 赤木 恭子	B-5 モジュール発表 小学校スタートカリキュラムにおける遊びの要素を活かした造形活動の実践と考察 鶴見大学短期大学部 鮫島 良一	C-5 中学校美術(共通事項)を実感的に身に付けるための共通領域「造形実験」について -小学校「造形遊び」を踏まえて- 東京都小笠原村立母島中学校 大黒 洋平 造形実験の理論-造形実験が生まれるまで- 武蔵野美術大学 三澤 一実	D-5 視覚障害のためのインクルーシブアート教材開発: アルチンボルドの絵画を「みため」鑑賞/表現題材 跡見学園女子大学 茂木 一司 長岡造形大学大学院 竹丸 草子 九州大学大学院 梶原 千恵 星美学園短期大学 大内 進 跡見学園女子大学 高橋 杏	E-5 高等学校美術科における彫刻題材「石膏でつくるオノマトペ」の実践-造形的な見方・考え方と相互理解について- 東京学芸大学 横田 浩子
14:10 14:35	A-6 鑑賞活動を通して育成される創造的な技能に関する研究 東京学芸大学教職大学院 西村 德行			D-6 予備室	E-6 予備室
14:45 15:00	閉会式 D会場 閉会				

■第56号 日本美術教育研究論集 2023■

【投稿及び掲載要項】

研究論集編集委員長 立川 泰史

投 稿 要 項

- 投稿ならびに掲載の条件： 第56回日本美術教育研究発表会の発表者は『日本美術教育研究論集第56号』に投稿できます。投稿論文の研究論集への掲載は、次の(1)～(7)の条件を全て満たしたものに限り、
- (1) 投稿原稿の題目ならびに内容が、研究発表会における発表内容と同じであること。
 - (2) 投稿原稿の内容が、未発表かつオリジナルなものであること。
 - (3) 投稿原稿の内容が、投稿された各群の内容として適合していること。
 - I群（理論・実践研究論文）…理論的・実践的な実証に基づいた独創的な知見を含む論文。
 - II群（実践研究報告等）…さまざまな教育現場におけるすぐれた実践を報告するもの。
 - III群（研究ノート）…将来の研究につながる問題の提起ならびに先行研究や事例の紹介。
 - (4) 投稿原稿において、投稿規程にある書式、分量等が守られていること。
 - (5) 掲載料を期日（2022年11月4日）までに納入していること。
 - (6) 作品の図版や写真・VIDEO映像等の著作物を利用する場合及び写真等の肖像権は、必ず投稿者が事前に著作権者・出版社・所有者・本人もしくは保護者等の許諾を得ること。引用文献は、脚注等に「著者・著書名・発行所・出版年・頁」の順で出典を明記すること。
 - (7) 研究論集編集委員会による総合審査において、投稿原稿の掲載が妥当と判断されること。
- 論文査読： I群（理論・実践研究論文）・II群（実践研究報告等）・III群（研究ノート）ともに複数の査読委員が査読を行い、編集委員会での審議を経て投稿原稿掲載の可否を決定します。掲載が決定した論文は、各主査がまとめて論評し、各論評を研究論集の〈論評の部〉に掲載します。
- 原稿書式： I群・II群・III群ともに、本文/図版（写真・表・図等）及び、I群のみ必須の「英文サマリー」を含め、下記の書式と文字数を守って下さい。
- 1頁分の基本書式は、A4横組2段組 23字×44行×2段組=2024字です。
- 題目（副題）、所属、氏名は、第1頁の1行目から2段取り（1段組に統合）で記載し、題目の英語表記・所属・氏名のローマ字表記も含めます。本文は10行目から2段組で書き始めます。
- 共通の項立て・見出しを用い、以下の番号と見出し語のみとします。
- 大項目 1. 2. 3. [全角数字] …、中項目 (1)(2)(3)…、小項目 ①②③…。
- 掲載料： I群・II群・III群ともに掲載料は、一般（給与を得ている内地留学生等を含む）15,000円、院生・学生8,000円です。
- 8頁（III群のみ6頁も可）を原則とし2頁増ごとに6,000円を加算し（奇数頁の場合も余白頁を含めて2頁増として計算）、10頁では一般21,000円、院生・学生14,000円です。
- 頁の上限は12頁で、一般27,000円、院生・学生20,000円です。
- カラーページは1頁につき12,500円を加算します。
- 抜き刷り（一律50部）は、8頁モノクロで7,000円です。2頁増ごとに2,000円を加算します。（抜き刷りのカラーページは、1頁ごとに2,000円を加算します。）
- 掲載料は下記口座に納入し、送金証明書（利用明細書のコピー等）を投稿論文に同封して下さい。
- 口座記号番号：00170-1-86036（右寄せで記入）郵便振込です。
- 加入者名：公益社団法人日本美術教育連合
- ご依頼人：〒郵便番号・住所・氏名・電話番号・所属機関
- 通信欄：例）掲載料15,000円（一般、8頁）+増頁分6,000円（2頁増の場合）=21,000円（計10頁）
- 「抜き刷り」を希望の場合は、その旨明記し、必要な金額を加算してください。
- ※査読の結果、掲載に至らない場合は、納入した掲載料の内5,000円（院生・学生3,000円）を引いた金額を返金します。

〈投稿原稿〉11/4（金）消印有効 レターパック・プラス（赤）

- 投稿メ切： 令和4（2022）年11月4日（金）消印有効。I群・II群・III群とも次の①～③をご提出ください。
- ①原稿（正1部と副3部、合計4部）、②投稿エントリーシート、
 - ③送金証明書（エントリーシートに貼付）
- 投稿原稿は、完全原稿とし、締め切り期日以降の差し替え・変更は認めません。ただし、研究論集編集委員会が修正を求めるときは、この限りではありません。発行日は、令和5（2023）年3月31日を予定しています。
- 〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
東京家政大学 家政学部 児童教育学科 結城孝雄 宛
- 詳細連絡： 研究発表会当日に詳細を連絡します。口頭発表者は時程と場所を二次案内で確認して下さい。
- 問合せ先： 研究論集編集委員会 研究論集編集委員長 立川泰史：042-782-9811（代）
tachikawa@kasei-gakuin.ac.jp（東京家政学院大学）

事業局より

■「造形・美術教育力養成講座」と「造形・美術フォーラム2022」について(案内)■

日本美術教育連合理事・事業局運営委員長 三 澤 一 実

本年度の「造形・美術教育力養成講座」は「パラダイムシフトの中でのアート」をテーマとし、3つの講座を計画しています。

2019年から始まったCOVID 19のパンデミックは日常生活や社会構造まで変革をもたらし、私たちはこのパラダイムシフトの真只中にいます。また、ウクライナ問題を始め世界各地で勃発する紛争、そして経済不安は社会を不安定にし、そのなかで人間同士のコミュニケーションの必要性はますます高まっています。このような社会変革の中、私たちはどのようにアートを捉え、アートを武器として、他者と多様な価値観を共有し暮らしを豊かに生き抜いていくかが問われています。

第8期「造形・美術教育力養成講座」では、「パラダイムシフトの中でのアート」というコンセプトで全3回の連続講座を開き、第一線で活躍されている講師の話と、ワークショップの体験を通して学んでいきます。造形・教育フォーラムでは「これからの美術教育」についてゲストとともに考えて行きます。

※詳細及び申込み方法はホームページ、Peatixに等で公開しますので随時ご確認ください。

Peatixの日本美術教育連合をフォローして下さい。

<https://peatix.com/group/7506961/view> →



■「造形・美術教育力養成講座」

内 容

第1回 12月24日 「社会包摂のデザインとアート (仮)」 講師：中村美亜 九州大学大学院芸術工学研究院 准教授

第2回 1月8日 「コミュニケーションを生み出す新たな取り組み—『シンビズム』—長野県の美術館連携からの提案」 講師：伊藤羊子 長野県文化振興事業団アーツカウンシル推進室チーフコーディネーター

第3回 1月21日 「ファッションとアート」 講師：津村耕佑 ファッションデザイナー／武蔵野美術大学教授

参加費 有料(1,000円+ワークショップ材料費実費) 一般・学生は別途設定。

参加人数 各講座30名を予定

その他 全3回の内2回以上の参加者については「造形・美術教育力養成講座修了認定書」を授与します。(要申請)

■「造形・美術フォーラム2022」 「これからの美術教育を考える」 対談 東良雅人 × 板倉寛

日 時 12月11日(日) 13:00～15:00 受付12:30～

参加費 無 料

方 式 ハイブリッド(対面とzoomによる配信)を予定

内 容 先が見通せない世の中ですが数年後には学習指導要領の次期改訂に関わる作業が始まります。そこで、今、そしてこれからの時代をどのように捉えていくべきかを、板倉寛氏(文化庁文化経済・国際課長(併)内閣官房内閣参事官)と現行の学習指導要領に関わった東良雅人氏(前文科省視学官/京都市教育センター副所長)の対談を通して考えていきます。

※問い合わせ 事業局 三澤一実 武蔵野美術大学 kmis@musabi.ac.jp

国際局より

■ InSEA情報 (E_news 2022年8月号から) ■

日本美術教育連合理事・国際局運営委員長 西村 德行

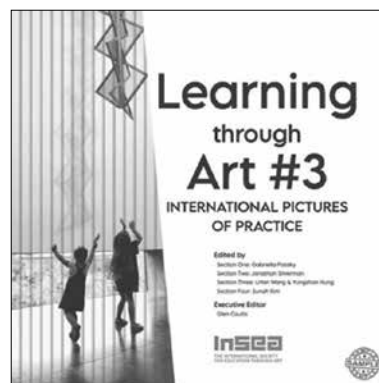
InSEA会員には、InSEAの最新情報が、毎月「InSEA Members' e-news」としてメールで送られてきます。ホームページ (<https://www.insea.org>) の情報とも重なりますが、この8月に送られてきた情報から、いくつかご紹介します。

□InSEA世界会議2023が『Fault Lines (断層線)』をテーマに、トルコ西部チャナッカレで2023年9月4～8日まで開催されます。ヨーロッパとアジアの地理的、文化的な接点となるトルコは、多数のプレートがせめぎ合う地震大国でもあります。この地にある「断層」を比喻として用い、芸術教育が今日的課題の解決にどのように貢献できるか話し合われます。



大会ロゴ (InSEAホームページから)

□Learning Through Artシリーズの3冊目「世界の実践画像」というタイトルの本が、8月下旬に出版されました。世界28カ国、57名の著者による450ページ以上のエッセイを収録しています。まさに世界の美術教育の現場を知ることができます。



Learning Through Art #3表紙 (InSEAホームページから)

□美術教育ヴィジュアルジャーナルIMAG13号「美術教育者のための気候変動リテラシー」が発刊されました。IMAGはオープンアクセスで、InSEAホームページからダウンロードできます。なお本連合の佐藤真帆先生が編集を担当されています。



IMAG 13号 表紙 (InSEAホームページから)

□InSEA世界評議会2022-23とInSEA地域評議会理事会2022-24 (アジアとヨーロッパ) の役員が選出されました。InSEA世界評議会アジア地区評議員には佐藤真帆先生 (国際局局員・千葉大学) が再選されました。またInSEAアジア地域評議会理事会秘書に笠原広一先生 (国際局及び研究局運営委員・東京学芸大学) が新しく選出されました。おめでとうございます!

事務局より

■事務局便り■

事務局長 畑 山 未 央

□**会員の異動**（敬称略）

〈退会者〉熊田藤作氏・山村宏昌氏

（これまで連合を支えていただき、まことにありがとうございました）

〈入会者〉石田恒平氏・小島菜緒子氏・竹美咲氏・高野雄生氏・西口宏泰氏の5名の方の入会が、8月28日開催の理事会・運営委員会にて承認されました。どうぞよろしくお願いたします。

□**来る10月16日（日）に、第56回日本美術教育研究発表会2022を開催いたします！**

来る10月16日（日）に、第56回日本美術教育研究発表会2022（文化庁後援）が、今年もオンラインにて開催されます。エントリーいただきました会員のみなさま、まことにありがとうございました。

本年度は25件の発表が予定されています。日々の実践の中で児童生徒の姿をもとに紡がれた報告や、理論的・科学的考察から組み立てられた研究、世界の美術教育の動向など、多彩な発表が期待されます。会員のみなさまにおかれましては、ぜひ会員外の方もお誘いいただき、本研究発表会を盛り上げていただきますようお願い申し上げます。なお、参加費として概要集代500円を戴いております。運営上の経費としてご理解下さい。

□**令和4年度（2022年度）会費納入のお願い****本年度会費納入のお願い****令和4年度会費 6,000円 を 納入してください。**

※（公社）日本美術教育連合の会計年度は、毎年4月1日から翌年4月末日までです。納入期限が過ぎておりますので、まだお納めでない方はお早めの納入をお願い申し上げます。

【**郵便振替**】

（公社）日本美術教育連合 口座番号00170-1-86036

【**ゆうちょ銀行以外の金融機関（ネット銀行を含む）からの送付先**】

《銀行名》ゆうちょ銀行《支店番号》019《預金種目》当座《口座番号》0086036

- *同封の振り込み用紙をご利用ください（恐れ入りますが手数料はご負担ください）。
- *当連合からお送りする振込み票には、確認のために次年度分の納入会費が記載されています。
- *過去3年以上会費未納の方につきましては、今回ご入金いただけない場合「除名」という対応をとらざるを得ません。ぜひ納入にご協力ください。なお今回のお願いと行き違いで、すでに納入済みの方には失礼をお許しください。

□お問い合わせ先：公益社団法人日本美術教育連合 事務局 北澤 俊之

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20 東洋大学文学部教育学科

TEL&FAX：03-3945-8568（研究室）

E-mail：kitazawa@toyo.jp